

令和8年産米 環境保全米栽培履歴記録

住所	電話番号	品種名
生産者名	対象水田面積	環境保全米コシヒカリ
	アール	

担当者確認欄

作業記録

秋耕起	令和6年 月 日～ 月 日(日間)	春耕起	月 日～ 月 日(日間)	深耕 cm(実施・未実施)
荒かき	月 日～ 月 日(日間)	代かき	月 日～ 月 日(日間)	農機具点検 (実施・未実施)
田植え日	月 日～ 月 日(日間)	栽植本数	株/3.3㎡	土壌分析 (実施・未実施)
漏生苗抜き取り	月 日～ 月 日(日間)	雑草抜き取り	月 日～ 月 日(日間)	食味分析 (実施・未実施)
溝切り日	月 日～ 月 日(日間)	中干し開始日	月 日～ 月 日(日間)	緑肥作物 (実施・未実施)
出穂日	月 日～ 月 日(日間)	幼穂形成期葉色()	出穂期葉色()	機械共同利用(実施・未実施)

刈取り日	月 日～ 月 日(日間)	刈取前落水日	月 日～ 月 日(日間)	通風乾燥 時間
乾燥調製	・自己乾燥 ・共乾施設() ・乾燥委託()	乾燥時間	温度 時間	乾燥温度 度

種子購入関係記録

苗箱消毒	・イチバン	月 日～ 月 日(日間)	倍液
種子購入	・農協(乾籾・温湯消毒済み) ・農協以外(購入先)		
播種月日	・播種量(g/箱 撒き)	月 日～ 月 日(日間)	基準 120g/箱
播種時床土	・加工床土 ・いなほ粒状培土 ・ホーネンス培土 ・その他()		

・苗購入記録

購入先	購入先()	【発芽苗】 枚	【成苗】 枚
-----	--------	---------	--------

・施肥記録

土づくり	・鉄入シリカパンチ F ・粒状ケイカル ・その他() ・苦土重焼燐 30 ・発酵けいふん ・その他()	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	参考 化学合成由来窒素量
基肥	・米有機 8 号 (側条施肥 ・ 全層施肥) ・有機一発 369 号 (側条施肥 ・ 全層施肥)	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
中間追肥	・エスアイ加里らくだ ・その他() ・エスアイ加里カリ投げくん	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
穂肥①	・穂肥有機 220 号	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
穂肥②	・穂肥有機 220 号	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
	化学肥料使用量(窒素成分)	合計	kg	

農薬使用記録

※○の数字は農薬成分数になります。

種子消毒	・モミガード C 水和剤 ・食酢 ・その他()	月 日～ 月 日(日間)	倍液	成分数
播種時消毒	・ベンレート水和剤	月 日～ 月 日(日間)	倍液	
箱施薬	・リョーガブフェルテラ粒剤 ・ブーンレパード箱粒剤 ・その他()	月 日～ 月 日(日間)	g/箱	
初期除草剤	・マージェット1キロ粒剤 ・クラール1キロ粒剤 ・その他()	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
一発除草剤	・サブラレッド GO1キロ粒剤・プライオリティ1キロ粒剤 ・デイオール1キロ粒剤・その他() ・デイオールジヤンボ ・デイオール顆粒	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
中後期除草剤	・バイスコープ1キロ粒剤・その他() ・トドMF1キロ粒剤・その他()	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
本田防除	・モンセレン粉剤 DL	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
	・ラブサイトキアラップ粉剤DL	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
	・スタークル粉剤DL	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
	・その他()	月 日～ 月 日(日間)	kg/10a	
	液剤	月 日～ 月 日(日間)	0/10a	
	・無人ヘリコプター防除	有 (1回目 月 日, 2回目 月 日)	0/10a	

※側条施肥・可変施肥・低燃費機械を選択している方は、田植機等機械のメーカー・型式を記入ください

メーカー 型式

点検結果
 「○」: 取組事項を実践し、規範項目を達成できている
 「△」: 取組事項を実践したが、効果が十分でなく、規範項目を達成できていない
 「×」: 取組事項を実践できず、規範項目を達成できていない
 「-」: 実践する必要がある

『規範項目』	点検結果
『保険への加入・免許の取得』	<労働>
<ul style="list-style-type: none"> ・死亡やけがに備えて、労災保険(労働者災害補償保険)等へ加入している。 ・道路等での第三者を巻き込んだ事故に備えた任意保険へ加入している。 ・事故により機械等が破損した場合に備えた任意保険へ加入している。 ・機種に応じた運転免許を取得し、さらに機種によっては講習等を受講している。 ・機種に応じたナンバープレートを取得している。 	<安全・環境>
『有害物質を含む資材からの農地汚染の防止』	
<ul style="list-style-type: none"> ・放射性セシウム汚染の恐れのある堆肥・土壌改良資材・培土は使用していない。 ・汚泥を原料としている肥料等は、原則として水田に施用していない。 	<環境>
『代かき後の濁水や農薬の流失防止』	
<ul style="list-style-type: none"> ・水田の代かき後の濁水の流出を防止している。 ・水田からの農薬流出を防止している。(散布後1週間程度は止水・湛水状態を保つ) 	<安全・環境>
『種子消毒廃液と消毒済み種子の適正処理』	
<ul style="list-style-type: none"> ・種子消毒の廃液は、適切な方法で処理している。 ・消毒済み種子は、購入後間違えないようしっかりと表示・保管している。 ・播種が終わったら、余った種子は速やかに廃棄処理をしている。 	<安全・環境>
『使用農薬の適切な選択、農薬使用時の使用量・時期・回数等の遵守』	
<ul style="list-style-type: none"> ・容器や包装に表示してあるラベルで、栽培している作物に適用があることを必ず確認している。 ・防除暦等を確認し、推奨されている農薬を選択している。 ・農薬を使用する前に、ラベルをよく読み、内容を確認し、記載されている内容や注意事項に従って、散布を行っている。 ・農薬を使用した時期や量について、ほ場ごとに記録を作成・保管している。 	<安全・環境>
『防除器具等の十分な点検と洗浄』	
<ul style="list-style-type: none"> ・使用前に、防除器具がしっかりと洗浄されていることを確認している。 ・使用後は、速やかに防除器具の洗浄を行っている。 ・洗浄水は河川、下水道等に流入しないよう配慮している。 	<安全・環境>
『周辺作物への農薬の飛散防止』	
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺作物の栽培者に対して、事前に使用農薬等について連絡している。 ・無風又は風が弱い天候や時間帯に散布している。 ・散布時には、風向き、散布器具のノズルの向き等に注意している。 ・農薬散布は、病害虫の発生状況に応じ最小限の区域に留めている。 ・飛散の少ない形状の農薬、散布方法、散布器具を選択している。 	<安全>
『カドミウムの吸収抑制』	
<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期から20日間は、湛水状態を保っている。(田面が露出しないよう湛水状態を維持している) ・アルカリ資材の施用により土壌pHを矯正している。 	<安全・環境>
『農薬・燃料等の適切な管理』	
<ul style="list-style-type: none"> ・直射日光の当たらない、冷涼・乾燥したところに専用の保管庫を設置し、鍵をかけて管理している。 ・容器の移し替えはしていない。 ・毒物または劇物がある場合には保管庫に必要な表示をしている。 ・燃料油の容器は専用のものを使用し、専用の場所に保管している。 ・保管場所は、消火器を備え、火気厳禁としており、鍵をかけている。 ・こぼれた燃料が周囲の環境を汚染しないように、貯蔵場所の周囲に防油堤や溝を設置している。 ・ガソリンを室内で保管しているときは、常に換気している。 ・燃料のそばでは、火花を発生する工具等は使用していない。 	<安全>
『生産資材の使用履歴記帳と記録の保管』	
<ul style="list-style-type: none"> ・農薬・肥料等の生産資材の購入伝票等を保管している。 ・農薬の使用後は、使用した年月日や場所などの情報について、速やかに生産履歴簿に記載している。 ・肥料や土壌改良資材など、その他の生産資材についても、使用後は生産履歴簿やその他の方法により記録を行っている。 ・購入伝票や資材の使用履歴とともに、作物生育の良否や当該年の気象等についても記録・保管している。 	<安全・環境>
『農業生産活動に伴う廃棄物の適正な処理』	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産活動に伴い発生している廃棄物は、資格のある産業廃棄物処理業者に処理を委託している。 ・「不法投棄」や「不法な埋め立て」、「野焼き」は行っていない。 	<安全>
『米穀等の清潔で衛生的な取扱い』	
<ul style="list-style-type: none"> ・米穀や麦等の収穫後は、適時・適正な乾燥を行うなど、温度や湿度の管理等の措置を防止している。 ・米穀や麦等を取扱う乾燥調製や貯蔵のための施設は、清掃及び適切な補修により、常に清潔で衛生的な状態に保っている。 	<安全>